エディ・ジョブソン

Special Report & Interview

Eddie Jobson

1978〜80年というわずかな活動期間で、世界に衝撃を与えたイギリスのプログレッシブ・バンドU.K.。その中心人物であるキーボーディスト／バイオリニストのエディ・ジョブソンが U.K.の日本公演から時を経て、実に30年ぶりの来日を果たした。新たなバンドUKZを引き連れて。今回編集部は、この貴重なライブ公演のレポートとエディのインタビューを長年のエディ・フリークである小川文明氏に依頼。ファン必見のマニアックな話から今エディの考えるキーボードの役割ついて聞くことができた。公演時の模様、セッティング・レポートと併せ紹介していこう。

UKZ

2009.06.11 六本木 STB139

6月11日、UKZを観に六本木STB139に行ってきた。何の前知識も持たずに行ったので、果たしてかつてのU.K.級の演奏が聴けるのだろうか？というような懸念は、バンド・メンバーから少し遅れて登場したエディ・ジョブソンがいきなり弾き出した「ナイト・アフター・ナイト」のイントロの超絶アルペジオで吹っ飛んだ！　す、すごい!!!そして、息つく暇もなく2曲目の冒頭で“プチュ〜!”と鳴っているCの低音。さらにポルタメントがかかったE♭とB♭の高音が“ビャ〜!”と鳴った瞬間、会場は“ウォ〜!!!”と沸きに沸く。「アラスカ」だ。エディはこの夜音源をすべてソフトシンセで演奏していたが（詳しくはインタビューを参照）、このイントロのサウンドはヤマハCS-80以外の何者でもなかった。

バンド・メンバーも素晴らしくて、特にドラムのマルコ・ミネマンは圧巻であった。彼がU.K.の曲を叩くときは、ビル・ブラッフォード（d）とテリー・ボジオ（d）の良いところをそれぞれリスペクトしながら叩いているように聴こえたし、いくらテクニカルに叩いても根底にロック魂があるところが素晴らしい。エディのソロ・コーナーで『グリーン・アルバム』のピアノ小品「プレリュード」が聴けたのもうれしかった。本編ラストは「イン・ザ・デッド・オブ・ナイト」（「ブレスト・ヴィヴァーチェ」は割愛）。そして、アンコールの1曲目はなんとキング・クリムゾンの「太陽と戦慄パート2」（!）。会場にはどよめきが走った。さらに、続いて演奏されたのは「シーザス・パレス・ブルース」。そこで“では、ゲストを紹介します!”とエディ。何と、エレクトリック・バイオリンを抱えて登場したのは、著者のソロ・アルバム「moogie woogie」でも弾いてもらっている美ノ辺純子さんであった！　素敵でした!!!　さらに、最後の最後はデイヴ・スチュワートとエディの共作「サハラ・オブ・スノー・パート2」。この曲で締めるとは……。エディとデイヴの大ファンである著者にはもはや涙でストライク・ゾーンが見えなくなり……（感涙）。（小川文明）

SET LIST
01. ナイト・アフター・ナイト
02. アラスカ
03. ジ・オンリー・シング・シー・ニーズ
04. ヒューストン
05. テーマ・オブ・シークレット／プレリュード／ノスタルジア（キーボード／バイオリン・ソロ）
06. ジャカランダ（トレイ／マルコ・デュオ）
07. レジェンド／オースティン・パワーズ（アレックス／トレイ／マルコ・トリオ）
08. ドラム・ソロ
09. TU-95
10. ランデヴー6:02
11. キャリング・ノー・クロス
12. ラディエーション
13. イン・ザ・デッド・オブ・ナイト

E.C.1 太陽と戦慄パート2
E.C.2 シーザス・パレス・ブルース
E.C.3 サハラ・オブ・スノー・パート2

▼メンバーは左からエディ・ジョブソン（k、v）、トレイ・ガン（b）、アーラン・リバート（vo）、マルコ・ミネマン（d）、アレックス・マカセック（g）。